

生涯教育研修会報告書
病理・細胞検査研究班
学発番号 11-069

平成24年2月18日
報告者
所属 宇治徳洲会病院
氏名 江口 光徳
連絡先 0774-20-1111 (代)
会員番号 264509-0255

行事名：病理・細胞検査分野 研修会
日時：平成24年2月18日 土曜日 14:00～17:00
会場：京都保健衛生専門学校 視聴覚教室
主題1：平成23年度 病理検査精度管理報告及び解説
講師所属：京都府立医科大学 病理学教室
講師名：奥田 崇技師
主題2：平成23年度 細胞診検査精度管理報告及び解説
講師所属：京都桂病院
講師名：小山 賢技師
主題3：患者側から見た京都のがん医療について
講師所属：NPO 法人 京都がん医療を考える会 理事長
講師名：佐藤 好威氏

分類：専門 検体検査-20点
全体参加人数：14人（京臨技のみ1人）

以下、講演内容など

今回の研修会は前半に平成23年度の精度管理報告及び解説を、病理分野と細胞診分野のそれぞれの精度管理委員より報告していただいた。病理分野では今回は腎臓組織についてブロックよりスライドを作成しPAS染色、PAM染色を行った。PAS染色では昨年度の精度管理も同染色を行ったためかほとんどの施設でA判定を取得できており、技術の向上が認められた。PAM染色は、腎臓組織におけるPAM染色の特殊性で非常に薄い薄切が求められる部分で、難しい技術の一つであるためかB判定が多くなった。今回きれいにできていた施設の手順を示して参考にさせていただき精度の向上をはかっていきたいと考える。

細胞診部門では10問中1問で正解率が非常悪い問題が出たため、評価対象外となった。その他の問題ではほとんどの施設が良好な正解率であった。今後の細胞診精度管理の行い方の問題提起があり、このままのスタイルで行うのか、少しやり方を変えるのかなどの意見が出され、今後の検討課題となった。

後半ではNPO法人 京都がん医療を考える会の佐藤好威理事長より、患者側から見た目線より京都のがん医療についてのお話をいただいた。普段病理・細胞診を中心に行っている技師は患者さんと直接お話をする機会は非常に少ないため貴重なお話であった。これまで京都の中でがん患者の会などがどのような活動をされてきたか、患者側から感じるがん医療の問題点などスライドを使って分かりやすくお話いただいた。われわれが返却した病理・細胞診の結果の先に患者さんがどのようにおられるかが良く分かり大変有意義であった。今回聞いたことを忘れず我々はより精度高い結果を返せるように更なる努力をしようと考えさせられる研修会であった。